

2020年度

事業計画書

公益財団法人 日産厚生会

当会の2020年度の事業活動計画は以下のとおりである。

1. 医学研究の推進

医学研究所の統括の下、各施設がそれぞれの施設特性に応じた臨床医学研究や予防医学研究の活動を実践し、その成果を学会発表や学術論文として外部に発信すると共に、医学フォーラムや院内研修会等を通じて、知識・技術の普遍化を促し、厚生会全体の医療水準の向上を図る。

①医学研究所

各施設の研究計画、研究活動を統括すると共に、関係諸学会への参画を継続的に支援する。第7回医学フォーラムを主催し、各施設・各部門の日々の研究成果の発表機会を提供すると共に、全体の研究マインド向上を図る。

今年度は、玉川病院と他施設、特に佐倉厚生園病院との共同研究や共同発表等への取組について具現化を推進し、厚生会全体としてより一層の研究活動実績向上を支援する。

②玉川病院

各研究センター（透析、気胸、ヘルニア、股関節、リハビリ）・診療部・医療技術部及び看護部それぞれにおける研究活動への取り組みを推進すると共に、研究成果の啓発・普及を図る。

③佐倉厚生園病院・玉川クリニック・診療所他

医学研究所との連携を密にして、各々の施設特性に応じた研究活動を推進する。

- ・回復期・慢性期病棟における看護やNSTの介入効果に関する研究
- ・禁煙対策に関する研究
- ・健診データ等の集積と分析による予防医学研究

各施設における具体的な研究・調査の内容については4頁以降の(別表)のとおり。

2. 社会への貢献

(1) 医療活動の質の向上

それぞれの施設状況に応じ、救急医療体制の充実化、総合診療体制の整備、大学病院等高度先進医療機関との連携強化、チーム医療の実践強化等の取組みを進展させ、提供する医療の質の向上に務める。

(2) 保健予防活動、健康普及啓発活動の推進

各施設において、人間ドック、成人病検診、乳がん検診その他各種検診での検査項目の充実や検査精度の向上による、疾病予防や早期発見に努めると共に、各検診の受診率向上を図る。

玉川病院や佐倉厚生園病院では、従来から行っている各種教室（糖尿病教室、腎臓病教室、呼吸リハビリテーション教室等）、病院祭や看護の日といった一般市民向け院内公開行事等を継続的に実施すると共に、AED講習会、熱中症講習会、市民公開講座等の院外における啓発活動を引き続き実施する。

また、診療所やクリニックにおいては、産業医としての講演活動等において、禁煙指導や生活習慣病予防等をはじめとする、様々な健康普及啓発活動を展開する。

更に、玉川病院では、世田谷区・地域保健所・医師会等の要請に応え、医師、看護師、PT・OT及びST等を、講演会・講習会に講師として派遣し協力する。

3. 教育・人材育成の推進

(1) 初期臨床研修医・内科専攻医及び特定看護師の育成、医学部実習生の受入れ

(玉川病院)

- ・ 基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として、初期臨床研修医の育成を行う。
- ・ 新専門医制度における内科領域の基幹病院として、専攻医の育成を行う。さらに連携病院として関連病院からの要請により、専攻医を受入れ育成を行う。
- ・ 特定行為に係る看護師研修制度における指定研修機関として、看護師の育成を行う。
- ・ 関連大学からの要請により、医学部実習生を受入れ実習指導を行う。

(佐倉厚生園病院)

- ・ 協力型臨床研修病院として、初期臨床研修医の育成を行う。

(2) その他医療・介護関連の実習指導

玉川病院、佐倉厚生園病院、佐倉ホワイエにおいては、医療、看護、リハビリ、臨床検査、栄養、薬剤、メディカル・ソーシャル・ワーカー、介護福祉、医療事務等の学生に対し、実習指導を行うとともに、要請に応じて講師の派遣を行う。

4. 医療活動の推進及び設備の充実

(1) 当年度の想定患者数、健診者数は3頁の(参考)のとおり。

(2) 機器・設備の整備等

(玉川病院)

- ① ナースコールシステム入替により、患者対応のスムーズ化を図る。
- ② 自動精算機の入替により、受診終了後の患者対応の効率化を図る。
- ③ 人事システムのバージョンアップ実施により、個別就労状況の見える化を図り、職員の働き方改革を推進する。
- ④ 本館・西病棟の耐震工事終了を踏まえ、非常用電源の稼働時間延長を図るべく、燃料タンクを造設し、災害拠点病院を目指す。
- ⑤ 南棟1階・病室系統空調機を交換し、患者環境の向上・充実化を図る。

(佐倉厚生園病院)

- ① 新館外壁等大規模修繕工事を実施し、診療及び療養環境の向上を図る。
- ② 非常用発電機を更新し、災害時の電源確保体制の強化を図る。
- ③ PACSシステムを更新し、病院内における画像診断の精度向上と迅速化を図る。

(玉川クリニック)

- ① 台風被害による天井・床等の内装リニューアル工事を推進し、診療環境の整備を図る。
- ② X線撮影装置を更新し、診断精度の向上を図る。
- ③ 健診科受付窓口の新設により一般外来受付との分離を図り、患者対応の効率化を図る。

(診療所)

- ① 耳鼻科のスコープ類を更新し、診療環境の整備を図る。

(ホワイエ)

- ① 本館火災受信設備を更新し、施設の安全機能の向上を図る。

以上

(参考)

想定患者数、健診者数等

(1) 入院患者数 (単位:人)

種 別	玉 川 病 院			
	2020年度予算		2019年度見込	一日平均 の増減
	延人員	一日平均	一日平均	
一 般	91,474	250.6	248.1	2.5
回復期リハ	12,958	35.5	35.2	0.3
地域包括ケア	14,275	39.1	40.6	△ 1.5
計	118,707	325.2	323.8	1.4
2019年度見込	118,525			
対前年度見込	100%			

(単位:人)

種 別	佐 倉 厚 生 園 病 院			
	2020年度予算		2019年度見込	一日平均 の増減
	延人員	一日平均	一日平均	
療 養	48,910	134.0	133.8	0.2
回復期リハ	15,622	42.8	42.5	0.3
計	64,532	176.8	176.3	0.5
2019年度見込	64,526			
対前年度見込	100%			

(2) 外来患者数 (単位:人)

科 別	玉川病院		佐倉厚生園病院		診療所		玉川クリニック	
	延人員	一日平均	延人員	一日平均	延人員	一日平均	延人員	一日平均
2020年度予算	206,890	706.1	18,459	63.0	18,570	76.4	26,170	87.2
2019年度見込	204,831	699.1	18,333	63.0	18,509	77.1	28,254	93.2
対前年度見込	101%	7.0	101%	0.0	100%	△ 0.7	93%	△ 6.0

(3) 健診者数 (単位:人)

種 別	玉川病院	佐倉厚生園病院	診療所	玉川クリニック	合 計
	延人員	延人員	延人員	延人員	延人員
各種健診	9,325	8,321	18,400	5,270	41,316
人間ドック	650	2,930	1,340	610	5,530
計	9,975	11,251	19,740	5,880	46,846
2019年度見込	9,531	11,028	19,719	5,636	45,914
対前年度見込	105%	102%	100%	104%	102%

(4) 佐倉ホワイエ利用者数 (単位:人)

区 分	入所延人員	1日平均	通所延人員	1日平均
2020年度予算	28,652	78.5	11,819	38.5
2019年度見込	28,511	77.9	11,543	37.6
対前年度見込	100%	0.6	102%	0.9

(別表) 研究・調査

I. 玉川病院

1. 研究センター

(1) 透析センター・腎臓内科

- ① 外来における慢性腎臓病 (CKD) チーム医療の透析導入患者に対する影響
- ② 維持透析患者に合併する下肢末梢動脈病変 (PAD) および重症虚血肢 (CLI) に対するフットケアの現状と有用性
- ③ 臨床工学技士による血管エコーを用いた血液透析患者のバスキュラーアクセス管理
- ④ 外来維持血液透析患者に対する透析中の運動療法の実施状況とその臨床効果
- ⑤ 腹膜透析 (PD) 療法に関する業務への臨床工学技士のかかわり
- ⑥ 透析センターにおける災害対策活動の取り組み

(2) 気胸研究センター

- ① LAM
 - 1) リンパ脈管筋腫症の組織培養法の検討
- ② BHDS 症候群
 - 1) Birt-Hogg-Dube 症候群に対する DNA 解析と疫学
 - 2) BHD 症候群における皮膚病変の臨床および病理組織学的検討
 - 3) BHD 症候群における腎病変および肝臓病変の MRI 画像診断的検討
- ③ 画像診断
 - 1) 女性自然気胸の原因診断における胸部 CT の有用性の検討
 - 2) 若年性肺気腫の画像診断と病理組織学的検討
- ④ 胸腔子宮内膜症
 - 1) 胸部子宮内膜症における横隔膜 MRI 診断の有用性
 - 2) 胸腔子宮内膜症の病期分類の検討
 - 3) 胸腔子宮内膜症の胸水の培養における診断法の検討
 - 4) 胸腔子宮内膜症の発症メカニズムの解明と新しいバイオマーカーの探索
 - 5) 胸腔子宮内膜症の胸壁および肺病変の病理学的検討
 - 6) 胸腔子宮内膜症の術後再発に対する TPC 治療の検討
- ⑤ その他
 - 1) 小児自然気胸に対する術後再発抑制の為の dual covering 法の検討若年性肺気腫の画像診断と病理組織学的検討
 - 2) 自然気胸術後再発における dual covering の効果

(3) ヘルニアセンター

- ① 日本ヘルニア学会鼠径ヘルニア治療のガイドライン改訂作業
治療前診断と診断方法などの見直し、改訂作業
- ② 鼠径部ヘルニアの画像診断と臨床実績の対比・研究
- ③ 小児における腹腔鏡下ヘルニア修復術 (LPEC 法) の研究と展開
- ④ 女性 Nuck 管水腫と子宮内膜症の関連に関する研究
- ⑤ 腹腔鏡下修復術の標準化と病態別個別化の研究
- ⑥ De Novo 型、Sliding 型ヘルニアの病態と治療戦略の確立
- ⑦ 前立腺癌、膀胱癌術後症例に対する安全・確実な TAPP 法の研究と開発
- ⑧ 鏡視下手術再発危険群の検討とその対策の研究
- ⑨ 腹壁癒痕ヘルニアの腹腔鏡下治療の導入と研究
- ⑩ 抗凝固剤、抗血小板剤等服用症例に対する治療戦略の研究
- ⑪ 嵌頓ヘルニアの治療戦略の確立 (鏡視下手術を基本として)

⑫ 術後慢性疼痛症例に対する治療戦略（ハイブリッド治療の確立）

(4) 股関節センター

- ① 変形性股関節症に対する新しい人工関節治療法の研究の継続
- ② Corail 型 ステムの臨床比較
- ③ SSI における α -defensin 判定効果の検討
- ④ 日本人の正常骨盤・股関節の形態計測
- ⑤ 人工股関節置換術後長期予後予測シュミレーションシステムの一般化と検証（新潟大学工学部と共同研究）
- ⑥ 人工股関節再置換術手術手技における適応と術式決定法の確率
- ⑦ 変形性股関節症の発症メカニズムの解明
- ⑧ 大腿骨近位部骨折治療法の確立と術後有害因子の検討
- ⑨ 新しい人工股関節導入と臨床成績の検討
- ⑩ Metal on Metal 人工股関節置換術の術後成績
- ⑪ 大腿骨近位形態の異常と臨床的ステム前捻の相違における検討
- ⑫ ステム形状の相違に伴う術後初期荷重の相違についての検討
- ⑬ MAKO robotic surgery THA における問題点と解決法の検討
- ⑭ THA における forgotten joint をもたらす因子の検討
- ⑮ インプラント周囲骨折に対する治療法の検討と確立
- ⑯ Periprosthetic joint infection (PJI) に対する治療法の検討
- ⑰ Asia-Pacific 術後 VTE consensus の確立

(5) リハビリテーションセンター

- ① 歩行同調型自立支援ロボットを用いた整形外科疾患、脳神経疾患でのリハビリへの応用とその改善に関する検討
- ② 経頭蓋直流刺激、経頭蓋反復時期刺激を用いた脳卒中後高次脳機能障害、運動麻痺の改善に関する検討
- ③ 痙縮に対するボトックス治療での効果の検討
- ④ タブレットを用いた失語症自習プログラムの開発とその効率的活用に関する検討

2. 各診療科

(1) 循環器内科

- ① 多職種チームによる心不全患者教育入院についての検討
- ② Rapid Response System (院内迅速対応システム) による院内急変の早期発見、予防についての検討
- ③ 心肺運動負荷試験による慢性腎不全患者と健常者の比較
- ④ 下腿浮腫患者の計画入院についての効果検討（フットポンプによるリンパ浮腫改善、検査、教育目的入院についての検討）
- ⑤ 心不全患者の外来指導と地域連携の確立についての検討

(2) 呼吸器内科

- ① 呼吸器疾患患者の夜間酸素飽和度低下に関する研究
- ② 呼吸器疾患患者の身体活動量の経年的変化に関する研究
- ③ 呼吸器疾患患者の四肢筋肉量の経年的変化に関する研究
- ④ 呼吸器疾患患者の6分歩行試験の経年的変化に関する研究
- ⑤ 慢性咳嗽患者における呼気一酸化窒素測定の有用性に関する研究
- ⑥ 呼吸器疾患患者の診療の質に関する研究
- ⑦ 呼吸器疾患患者の入院バリエーションの研究

- ⑧ 呼吸器疾患患者のポリファーマの実態に関する研究
 - ⑨ 呼吸器疾患患者の効率的な継続指示（入院）に関する研究
 - ⑩ 呼吸器疾患患者の ACP の現状に関する研究
 - ⑪ 超音波気管支鏡検査（EBUS+TBNA, EBUS+GS）の臨床成績に関する研究
- (3) 消化器内科
- ① 胃瘻造設患者とサルコペニア
 - ② 上部消化性潰瘍と抗血栓薬
 - ③ 炎症性腸疾患における新薬の効果の検討
 - ④ C型肝炎における DAA の治療効果の検討
 - ⑤ 慢性便秘の診療の現状
- (4) 糖尿病内科
- ① 当院の 2 型糖尿病患者に対する SGLT2 阻害薬の脂質への効果と背景因子
 - ② 当院の 2 型糖尿病患者に対する SGLT2 阻害薬の尿酸への効果と背景因子
 - ③ 血尿陰性の 2 型糖尿病患者での腎機能評価、early decliner の臨床像と患者背景
 - ④ リラグルチドの保険適応量増加に伴う使用薬剤の変化について
- (5) 脳神経内科
- ① 物忘れ外来での新しい認知症スケール「ABC スケール」活用による診断・治療後変化の検討
 - ② 中枢神経末梢神経連合脱髄症 CCPD 患者における診断及び治療の検討
- (6) 消化器・一般外科
- [消化器・一般外科]
- ① 高齢者手術における至適治療戦略；
平均寿命の延長により、平均寿命を越える超高齢者の外科治療の機会が増加しているが、適応、術式、周術期管理については一定の見解はない。下記のような臨床研究を計画する
 - 1) 腫瘍学的（長期成績）、合併症（短期成績）からみた至適リンパ節郭清範囲（胃癌、大腸癌）研究
 - 2) 術後 ADL の維持を目的とした、多職種による周術期プログラム（術前術後の筋力維持のためのリハビリ、栄養管理、社会的支援など）研究
 - ② 患者背景を優先した化学療法；
 - 1) 併存疾患を有する、あるいは 75 歳以上の高齢者に対する化学療法について、用量や投与スケジュールは、ガイドラインにおいても示されず、個々のケースにおいて主治医の判断によってなされる。併存疾患を有する、あるいは 75 歳以上の高齢者に対する化学療法について至適投与スケジュールを、腫瘍縮小効果、予後、合併症（QOL）など包括的検討から明らかにする研究
 - 2) 医師、薬剤師、看護師、訪問看護師からなる多職種チームによる外来化学療法の有効性と課題に関する研究
 - ③ 高齢者肛門疾患における至適術式；
75 歳以上になると直腸の貯留能、骨盤底筋群、括約筋などの低下が生じる。手術は併存疾患もあり、可及的に侵襲を小さくしなければならない。短期（合併症）、長期（再発再燃、QOL）からみた至適手術術式の研究を行う。特に直腸脱手術における、Delorme 手術、Altemeire 手術の選択における有用な因子を探索する研究
 - ④ 下肢静脈瘤に対する低侵襲手術治療；
下肢静脈瘤に対する RFA による低侵襲手術治療を短期長期成績から評価する研究
 - ⑤ 外科研修における早期からの難手術執刀の有用性と問題点の研究；

外科志望者の減少が著しい。技術取得に長期間を要することも一因である。研修早期の段階から、高難度手術も含めた執刀を経験することは、修練医のモチベーションとなり、技術獲得が早くなる可能性がある。一方合併症の増加が危惧される。そこで、当院で行っている若手外科医が執刀、学会認定教育医が第一助手として指導する体制の有用性と課題を検討する研究

- ⑥ 上部消化管手術における栄養管理の研究；
 - 1) 上部消化管手術においては各種栄養素の消化吸収が劇的に変化するが、亜鉛など微量元素の変動は未知の部分が多い。周術期、術後の血清亜鉛濃度を測定し、亜鉛補充の必要性を明らかにする。
 - 2) 医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士からなる多職種チームで日本版 ERAS である ESSENCE プロジェクトに準じた栄養管理の有用性について検討する
- ⑦ ICG 蛍光法による腸管血流測定の研究；
消化管再建（吻合）における、血流からみた肉眼的安全視認部位と、ICG 蛍光法による血流確認部位の比較検討を行う。
- ⑧ 腹壁閉鎖手技の研究；
外科的感染（SSI）の高頻度な腹部汚染手術における、皮下筋膜および真皮縫合を抗菌縫合糸による連続縫合で行うことの SSI 予防効果を検討する。

[乳腺外科]

- ① ICG 蛍光法によるセンチネルリンパ節生検手技の工夫とその評価
- ② Stathmin1, Survivin 遺伝子の乳癌における予後因子、治療効果予測因子としての意義に関する研究（国際医療福祉大学病理部と共同研究）
- ③ 乳腺 Neuroendocrine carcinoma の臨床病理学的検討

(7) 脳神経外科

- ① コンピュータ画像誘導による低侵襲手術の検討と確立
- ② 脳神経外科手術におけるトラクトグラフィーの応用と検討
- ③ 術中 ICG（インドシアニンググリーン）脳血管造影による脳血管病変の検討
- ④ 重症脳梗塞患者に対する減圧術の工夫と検討
- ⑤ 脳内および脳室内血腫除去に対する硬性神経内視鏡の利用と検討
- ⑥ 血管性病変の手術におけるマイクロ超音波血流計の利用と検討
- ⑦ 水頭症手術における、シャントシステムの比較検討（Codman:Medos system, Medtronic Strata II vulve system, B.Braun: Miethke proGAV system）
- ⑧ 正常圧水頭症における VSRAD の応用
- ⑨ 認知症鑑別に有用な画像検査の検討

(8) 整形外科

- ① 膝関節外科における新しい治療法の研究
- ② 大腿骨近位部骨折成績不良例の検討
- ③ MAKO robotic surgery TKA における問題点と解決法の検討

(9) 皮膚科

- ① 皮膚疾患における光線療法（ナローバンド UVB, エキシマライト）の有効な治療方法の確立と効果の検討
- ② アトピー性皮膚炎における新しい治療の検討（生物製剤、シクロスポリン、光線療法など）
- ③ 尋常性乾癬における生物製剤、免疫調整剤の適切な使用の検討
- ④ 薬疹における原因薬剤の同定と服薬指導による予防
- ⑤ 接触皮膚炎や食物アレルギー、アナフィラキシーにおける原因物質の同定と生活指導

- ⑥ BHD 症候群における皮膚症状の病理学的および疫学的研究、診断基準の確立
- ⑦ 結節性硬化症の皮膚病変に対するラパリムスゲルの有効性の検討
- ⑧ 褥瘡における創傷被覆剤、持続陰圧吸引療法、外用剤の適切な使用の検討
- ⑨ ウイルス性発疹症、疥癬の適切な診断と感染防御対策の確立
- ⑩ がん治療に使用する分子標的薬の皮膚障害に対する予防的治療の検討
- ⑪ 人工関節置換術前の金属パッチテスト施行による金属アレルギーの予防

(10) 泌尿器科

- ① 光選択的前立腺蒸散術の臨床成績の集積および 2017 年から新規導入した術式 (Vaporization and resection 法) の検討
- ② 光選択的前立腺蒸散術における射精温存術式の検討
- ③ 去勢抵抗性前立腺癌に対する新規治療薬 (エンザルタミド、アピラテロン、カバジタキセル、塩化ラジウム) を組み入れた治療戦略
- ④ PSA 高値症例に対する不必要な前立腺生検を回避するための MRI 検査の評価
- ⑤ 腎細胞癌の集学的治療 (手術、分子標的薬) の検討
- ⑥ 進行膀胱がんに対する放射線化学療法を併用した膀胱温存療法の検討
- ⑦ 小切開創手術 (根治的腎摘除術、根治的前立腺全摘除術) の展開

(11) 産婦人科

- ① 児の出生体重に関する因子についての検討

(12) 眼科

- ① 白内障手術における水晶体核分割法の差による術後経過の比較
- ② 白内障術後屈折変化に影響する眼内レンズの特性
- ③ Vogt-小柳-原田病患者の長期予後について
- ④ 病的近視眼における点状脈絡膜内層症の発症機序解明

(13) 放射線科

- ① 無症状部位に対する CT 検査の有用性について
- ② 専門領域と CT 検査範囲の相関性について

(14) 麻酔科

- ① 喫煙者と非喫煙者における術中制吐薬の有効性の検討
- ② 高齢の手術患者における局所麻酔薬による神経ブロックの有効性の検討
- ③ 非常勤麻酔科医確保とその有効活用に関する検討
- ④ 医師不足地域への麻酔科医派遣協力システムの検討
- ⑤ 複数施設での麻酔科医相互補完に関する検討
- ⑥ 高齢の大腿骨頸部骨折患者の予後に影響する麻酔管理方法の検討
- ⑦ 高齢者大腿骨頸部骨折患者の手術待機期間と予後の関係の検討
- ⑧ 救急救命士気管挿管実習時の指導法と挿管成功率の検討
- ⑨ 術前呼吸機能検査結果と周術期呼吸器合併症の検討
- ⑩ 同一手術室で手術患者退出から次の手術患者入室までの最低必要時間の検討
- ⑪ 胸部外科手術と整形外科手術における側臥位手術体位と腕神経叢合併症の検討
- ⑫ 仙骨硬膜外造影剤を注入した際の造影剤の到達レベルと患者要因の関係について
- ⑬ 高周波治療による神経根ブロック時、その施行時間と治療効果の関係について
- ⑭ うつ状態と疼痛改善の早さに関係性はあるか。K6 を用いた検討
- ⑮ 人工股関節全置換術術中のカクテル注射と全身麻酔からの覚醒時間との関係について

(15) 病理診断科

- ① 潰瘍性大腸炎患者の粘膜治癒評価と尿中プロスタグランジン E 主要代謝産物 (PGE-MUM) の臨床的有用性の検討 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 消化器・肝臓内科との共同研究)
- ② 脂肪腫と異型脂肪腫様腫瘍/高分化型脂肪肉腫 (ALT/WDLS) の組織、染色体、テロメア長と染色体の不安定性 (東京都健康長寿医療センター、がん研究所病理部との共同研究)

(16) 歯科

- ① 周術期口腔管理を始めて 1 年のまとめ

3. 医療技術部

(1) 薬剤科

- ① 薬剤投与による効果・安全性・QOL に関する研究
- ② 病院における薬剤師介入効果に関する研究
- ③ 医薬品安全管理に関する研究
- ④ 医薬品情報の収集・加工・提供に関する研究
- ⑤ 後発医薬品切り替えの影響に関する研究
- ⑥ 院内製剤の安定性に関する研究

(2) 臨床工学科

- ① 慢性維持透析患者における PAD 重症化予防の取り組み
- ② 定期電源設備点検から見えた透析センター災害対策の見直し
- ③ pH 中和装置導入に向けた取り組み
- ④ 安定冠動脈疾患患者に対する RFR (Resting full cycle ratio) について
- ⑤ ペースメーカー遠隔モニタリング業務の現状と今後の課題
- ⑥ ヘルメット型マスク使用時のモニタリング方法の検討
- ⑦ NPPV 療法における新しいフルフェイスマスクの有用性
- ⑧ ME 機器管理に使用される測定機器の至適耐用年数について
- ⑨ 病棟モニタのアラーム対応の現状と今後の課題
- ⑩ ME 機器の院内教育の見直し ～参加しやすい環境に向けて～

(3) 臨床検査科

[生化学・免疫]

- ① 検査報告の精度向上・迅速化およびコストカットを目指す

[輸血]

- ② 輸血後感染症検査受診向上に向けた取り組み
- ③ 時間外輸血検査の自動化に向けた検討・運用実施
- ④ 適正輸血実施のための取り組み
 - 1) 過剰依頼の抑制
 - 2) 輸血製剤廃棄率の改善
- ⑤ 輸血の安全運用についての広報
 - 1) 製剤の正しい取り扱い など

[細菌検査]

- ⑥ 感染症 (耐性菌) に関する医療スタッフへの教育 (継続)、血液培養 2 セット率向上にむけた取り組み

[病理]

- ⑦ 乳腺 Neuroendocrine carcinoma の臨床病理学的及び臨床細胞学的研究

[採血]

- ⑧ 採血管準備装置導入後の改善点を探る
[一般]
- ⑨ 尿沈渣における鏡検時の判定方法の統一化
[血液]
- ⑩ 血液像の鏡検時の細胞判定の同一に向けての試み及び骨髄像と判定できるようにする

(4) リハビリテーション科

- ① THA における腸腰筋・腹筋エクササイズが骨盤前後傾に及ぼす影響
- ② 人工股関節全置換術の使用ステムが杖歩行自立日に与える影響
- ③ THA の脚長差感・荷重と退院時の患者様満足度の関係
- ④ HFNC 使用下で積極的な歩行練習を実施した症例
- ⑤ 大腿骨頸部骨折後の再骨折の調査
- ⑥ TKA 術日からの介入における当院プロトコールの作成
- ⑦ THA 満足度調査からの入院介入における必要な因子
- ⑧ 脳血管疾患の肩装具について
- ⑨ HONDA 歩行アシストを使用した症例報告
- ⑩ 回復期病棟の患者の後ろ向き研究
- ⑪ 整形外科上肢障害に対する症例検討
- ⑫ 栄養指導介入の効果検証

(5) 放射線科

- ① 診療用放射線の安全管理（防護の最適化）

4. 看護部

- ① 特定行為研修修了者の実践事例
- ② 医療サービス分析システムを活用した患者 ADL 拡大と看護・介護業務の適正化に向けた実証研究
- ③ 日本看護協会看護師ラダーから当院の実践ラダーを導入した研修評価
- ④ 介護の自立に向けたアクション評価

II. 佐倉厚生園病院

1. 代謝内分泌科

- ① 動脈硬化症と糖および血清リポたんぱく質代謝の研究
- ② 療養病棟における血糖管理

2. NST 委員会

- ① 慢性期療養型病棟に入院中の後期高齢者・超高齢者に対する NST 介入に伴う症例研究

3. 薬剤科

- ① 高齢者の在宅支援における退院後の服薬状況実態研究

4. リハビリテーション室

- ① 回復期リハ退院後患者の追跡調査及び症例研究
- ② 森林浴による健康増進及びリラクゼーション効果

5. 回復期リハビリテーション病棟

- ① 回復期リハ病棟における看護介入効果と自立度の相関研究

6. 退院支援室

- ① 慢性期医療の退院支援効果と症例研究

7. 看護部教育委員会

- ① 各種症例を基にした看護研究

Ⅲ. 佐倉ホワイエ

- ① 老健施設の活動による心の活性化

Ⅳ. 玉川クリニック

- ① 禁煙対策に関する研究
 - 1) 禁煙外来受診者にたいする治療終了後の再喫煙調査
 - 2) 動脈硬化の危険因子としての喫煙と生活習慣病との関連についての研究
- ② 遷延性咳嗽患者の早期診断と治療に関する研究—玉川病院呼吸器内科との共同研究—
 - 1) 呼気NO検査の有用性についての研究
 - 2) 咳喘息患者のICS/LABAの投与期間についての研究
- ③ 当クリニックにおけるベンゾジアゼピン系睡眠薬服用者の実態調査と非ベンゾジアゼピン系睡眠薬への切り替えについての研究
- ④ ストレスによるうつ病患者の職場復帰支援プログラムツールとして自律神経機能測定器の有用性についての研究
- ⑤ 定期健康診断に対する受診者の意識調査と健診結果異常者に対する対応の検討

Ⅴ. 診療所

- ① 超悪玉コレステロール Small Dense LDL Cholesterol (sd LDL-C) と動脈硬化リスク因子との関連性についてデータの収集と分析を行う
- ② 数理医学分野では継続的に研究会への参加および発表を行う
- ③ 顔面骨形成について、基礎医学である発生学と耳鼻科領域の臨床医学との接点を探究する
- ④ 膵管内乳頭粘液性新生物 (IPMN) 患者のスクリーニング追跡調査への準備を行う